

社団法人全日本学生柔道連盟だより

第4号 1999年7月21日発行 編集・発行 総務担当理事部会

臨時理事会・通常総会を開催……6月25日 厳しい経済状況下における努力を確認する 平成10年度決算、11年度予算を承認

社団法人全日本学生柔道連盟の第9回臨時理事会は6月25日(金)午後3時から東京・銀座の交詢社で開かれ、平成10年度事業報告・収支決算、平成11年度事業計画・収支予算、及び会員の異動、顕彰、助成などを審議した。収支決算、予算については、4月に開催した通常理事会で十分に審議、了承しており、今回は通常総会に臨むための最終確認の意味を持つものであった。既に承知のように、経済の冷え込みによって連盟の競技会への協賛金も思うように集まらず苦しい運営を余儀なくされている。その中で、昨年度は中盤(秋)より諸経費の切り詰めに努力し、また石川会長のご尽力もあって約210万円の黒字決算となった。本年度については、振興費や協賛金などの収入減が確定的な中で競技会参加費の値上げ、賛助会員の拡大、引き続き諸経費の節約を図ることなどによって赤字を出さないように予算が組まれている(約40万円の赤字)。

理事会では、予算・決算を承認したほか、正会員3校の退会、申請のあった功労賞5名、競技会への助成2件を、それぞれ承認した。また、読売新聞社から要望が出されている正力松太郎杯全日本学生柔道連盟大会の日程見直しに関しては、まず競技担当理事の間で協議することにした。さらに、昨年度実施した「学生柔道基本調査」を本年度も実施することを決めた。

通常総会は理事会に引き続き同会場で午後5時から本人

法人化後の収支推移 単位千円

年度	収入	支出	差額	繰越
H8	---	---	---	4,726
H8	71,782	56,412	15,370	20,078
H9	69,713	71,045	▲1,332	18,746
H10	64,086	61,977	2,109	20,855

正会員数 (地区学生柔道連盟別・1999年6月26日現在)

北海道	東北	関東	東京	東海	北信越	関西	中国四国	九州	合計
28	25	42	49	33	20	49	30	40	316

出席21名、委任状出席203名のもとで開催され、平成10年度事業報告・収支決算、平成11年度事業計画・収支予算を審議、満場一致で可決した。

正力杯国際学生大会は中止

来月1月に開催が予定されていた正力松太郎杯国際学生柔道大会は読売新聞社の都合により中止となった。しかし、古連盟の男女個人戦の柱である正力松太郎杯全日本学生柔道体重別選手権大会は、これまで通り読売新聞社と共催で開催する。連盟事務局では主管の東京学連、及び読売新聞社との間で準備のための打合せに入っており、各地区大会への助成なども従前通りを行う。

全国大学柔道指導者研修会は8月27日から3日間 ——千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで

17回目を迎える指導者研修会(主管：関東学連)は、今年も勝浦市の日本武道館研修センターで開催する。今年は、基調講演を国際武道大学の石川晋教授(元文部大臣官房審議官)に「大学スポーツ・武道と指導者の役割」と題してお願いする予定。また、筑波大学の中村良三教授(JIF教育理事)が国際柔道界の動向を語り、パネルディスカッションでは柔道経験豊かな若手の医師が参加して「スポーツ傷害」をテーマに話し合う。このほか、柔道史、審判法も例年通り取り上げており、充実した内容となっている。

参加については、既に各地区学連を通して募っている。今年も有意義な研修会となることを願っている。

「学生柔道基本調査」を本年度も実施の予定

昨年実施した調査結果については各地区学連に既に報告しており、次々、報告書としてまとめる予定。回数が70%台で、部員総数も全柔道発表の大学関係教員との差が目立つ。また、女子部員の現状をみると課題となる点もあるため、本年度も国際武道大学に委託して同調査を実施する。